

●質問要旨

- ① ガンバ大阪の支援について
- ② 学習指導要領の改訂と吹田の教育について
- ③ 若者の政治参加と教育について
- ④ 低学年教育補助者について
- ⑤ 学校現場職員の勤務体制について

●質問要約

[問1]

ガンバ大阪は、吹田の子供達と交流し夢を与えてくれている。そんなガンバの応援と吹田市の観光推進のため、ゴミ収集車にガンバボーイを掲載したり、市内の私鉄の駅の壁にも市が音頭をとってガンバボーイの絵を描いてもらうなどして、「吹田はガンバ大阪の町だ」ともっとアピールすべきではないか。また、ガンバ大阪のホームである万博記念球場はもともと陸上競技場であり収容人数も限られているため、球場の改装・移転が必要と考えるが、市として夢のあるプランは提言できないか。

[答弁]

ガンバとの連携はまだまだ不十分と認識している。議員の提案を踏まえて、ガンバ大阪がわが町吹田のチームとして、より市民に愛されるよう、アピール方法を検討していく。改装・移転については、費用面からもかなり困難である。しかし、ガンバ支援のための夢のある方策は今後検討していく。

[問2]

日本の食料自給率が低迷を続ける中、アメリカが始めているように、戦略的に農業や水産産業を担う優秀な人材を育てる必要がある。そのために平和学習で「広島」「沖縄」に行く現行の修学旅行を見直し、漁業体験・農業体験などの自然体験学習をとり入れ、子供達に有意義な学びの契機と動機を与える必要があると考える。市の意見を聞きたい。

[答弁]

修学旅行の行き先については、児童生徒の実態を踏まえ、各学校の教育課程の中で適切に決められていると捉えている。今後も、修学旅行などの体験学習は、児童生徒の社会性や豊かな心を育む取り組みとなるよう研究していく。

[問3]

若者の政治離れが深刻で、20代では3人に1人しか投票に行かないという統計がある。このまま若者が政治に無関心であっては、市長が施政方針で述べられた、地方分権のものと「市民政府、地域政府」など実現不可能ではないか。今回インターンで来ている学生達の2ヶ月間の成長を見ていると、学生時代に政治を自分達の問題として捉えられる契機さえ与えれば、多くの若者が政治に参加してくれるようになるのではないかと考える。実際に、立命館大学では「知事リレー講義」、三重県議会では「みえ県議会出前講座」などで、若者の政治への関心を啓発している。本市には、多くの大学や小中高校があるのであるから、市長や我々議員も学生に生の声を届けてはどうか。講義するのは大変だが、教育現場の現状や問題が分かり、よりの的を射た教育施策を考えることもできるのではないか。

[答弁]

議員の活動に触れる質問であるとのことで、理事者側からの答弁はいただけず、市長答弁のみとなりました。

[問4]

低学年教員補助者とは、小学校の低学年学級に配置される教員等の資格を持った補助者のこと。他市にはない取り組みであり、義務教育スタートの時期に多くの大人が子供達に規律や躾を教える大変有意義な活動で、学校現場でも好評である。しかし現在の補助者の配置時間は12時半までで、子供達の給食指導カバーできていない。せめて30分延長し給食の時間をカバーすれば、食育推進にも繋がり、教育効果が高いと考えるが、市の見解は。

[答弁]

補助者配置は、保護者からも高い評価を得ているが、勤務時間については、給食指導や下校時への対応など課題を残している。今後も厳しい財政状況を勘案しながら、関係部局と協議を重ねていく。

[問5]

本市には約120名の給食調理員の職員がおり、年次休暇などを抜いた実働日数は219日、年間で給食を作る日は191日しかない。給食を作らない期間、調理員の方々は何をされているのか。また、調理員は28日の年休などを消化した上で、病気休暇が何回でも取れると聞いたが、調理員の病休取得の実態について聞きたい。さらに、調理員の平均人件費を（年休をすべて消化した前提で）計算してみたところ、時間当たり約4500円という数字が出た。市民感情を考えると、民間委託を検討すべきではないか。その場合どのくらい経費

が削減できるのか。

[答弁]

給食を作らない食の安全確保に努めるための衛生研修や新しい給食メニューなどの試作を行う調理実習、労働安全研修や環境整備、清掃、機器類の点検を行っている。病気休暇取得については、平成18年度の取得者は15名で、取得日数の最長の者は合計で88.5日（一人平均約27日\*神谷調べ）です。1週間未満の病気休暇については、医師の診断書を添付せず取得できる。こととしております。民間委託した場合の経費は、委託料として積算すると、7億5000万円の見込みとなるのに対し、平成18年度決算額では給食調理員及びアルバイト・パート職員の人件費10億2506万円で、差し引きすると、約2億7000万円の削減になると推測される。

[要望]

調理員の民間委託を検討し、そこで浮いた予算は財政再建に当てるのではなく、低学年補助者や読書活動の支援者、または、小学校の英語専任教員を雇用したり、休みなく部活指導しておられる先生方の部活動指導奨励金を創設するなど、より市民に喜ばれる教育行政施策に当てることを要望する。

●全文

吹田新選会、神谷宗幣、個人質問をさせていただきます。

まず初めに、ガンバ大阪の支援についてお訊ねいたします。

議員になってからの10ヶ月で市内16の小中学校を訪問することができました。その小学校訪問中に、多くの学校でガンバ大阪の選手と児童が交流している写真を目にしました。プロのスポーツ選手と実際に交流できる吹田の子供達は、本当に幸運だと思いますし、「ああいう人を目標に頑張ろう」と子供達に感じてもらえる、教育効果の高い交流をガンバ大阪は提供してくれているな、と交流の様子を見るたびに感じる次第です。

この交流は、ガンバ大阪がホームタウン重点4市と定める、吹田、茨木、高槻、豊中を中心に北摂一帯で「ホームタウンふれあい活動」として行われており、本市では昨年までに延べ37119人の児童が参加しています。ガンバ大阪は、この他にも毎年一月に「子どもサッカーフェスタ」を開催したり、「ホームタウンキッズシート」を設けて試合に招待するなど、吹田の子供に夢を与えてくれています。このようなガンバ大阪は、ホームグラウンドが吹田市にあり、先日行われた第1回パンパシフィック選手権では、見事初代王者に輝き今や日本を代表するプロサッカーチームです。 **このように実力と知名度・人気を兼**

ね備え、地元への貢献の姿勢をみせるサッカーチームを、観光事業の推進を目指しておられる阪口市長が、市のために最大限に活用されていないことを、私は非常にもったいないと感じております。

過去の議会議事録を拝見しますと、平成11年頃から先輩の奥谷氏や山口氏も、もっと市を挙げてガンバ大阪を支援することを提案されていらっしゃいますが、現状をみるとその提案が実現されているようには感じられません。現在、市ではガンバ大阪に対しどのような支援をされているのか、まずその点をお答えください。

また、平成13年3月議会での奥谷氏の質問で、ごみ収集車にガンバのマスコットであるガンバボーイを描き、市民にもっとアピールしてはどうかとの提案がありましたが、それに対する理事者の答弁は、「公用車を特定の事業者の利益のために使うことには問題がある」というニュアンスのものでした。これは全くもって「お役所」的な考え方で、私は賛同できません。吹田市が公用車を使ってガンバ大阪を応援する、という視点だけでなく、吹田市がガンバ大阪を使って市の観光推進を図ると発想を転換し、ごみ収集車で吹田市とガンバをアピールすることは市民の利益に適うと考えます。さらに提案ですが、市内の私鉄の駅の壁面にも市が音頭をとって、ガンバボーイの絵を描いてもらうなどし、「吹田はガンバ大阪の町だ」と広くアピールしてはどうでしょうか。

以上のような方法で、他市から来られる方々にも「ガンバのある町、吹田」をアピールすることについて、関係部局の見解をお示しください。

もう一点、市の観光推進とガンバ大阪の支援に関して提案を致します。ガンバ大阪がホームとしている万博記念球場は、収容人数が2万1千人しかなく、また施設もサッカー専用球場でないため、ファンやチームのニーズに応えられていないといった問題があります。これは、以前から指摘されていたことであり、それを前提に、高槻市では、5年前の市長選で市長がガンバのスタジアム誘致を公約に挙げられ、また、茨木市では昨年青年会議所が中心になりガンバの誘致を市に提言しておられます。莫大な予算のかかる事ですので、そう簡単に事が進むとは思いませんが、少なくともガンバ大阪やサポーターからすれば、こうした各市の動きは好意的に受け取られるでしょう。吹田市も、現在ホームグラウンドがあるからといって胡坐をかいては、関西大学の新校舎のように、気づけば他市に移っていました、ということにもなりかねません。そこで私は、現在の球場の大規模改装などを構想してみたのですが、現在の球場は元々陸上競技場で、サッカー専用にするのは難しいことや地下に貯水池があるため、大型の建造物を建てられないということが分かりました。そこで、市内の別の場所に新築ができないものかと思案しておりましたところ、先の12月議会と同僚議員が、片山町2丁目のJR職員宿舎跡地の利用について質問されたの聞き、片山町が球場移転には最適の場所ではないかと考えました。あそこは、JR吹田駅や阪急吹田、豊津両駅からも徒歩圏内ですし、JRであれば大阪駅から9分で最寄り駅まで来られるのです。このような移転がなれば、吹田市だけでなく、大阪全体の観光の活性化になると考えます。例えば、大阪駅を起点に、朝USJに行って、夕方からは吹田でサッカー

観戦をし、夜は道頓堀で食い倒れといった観光プランも考えられるからです。

確かに、莫大な予算のかかる事業ですが、吹田市が用地確保に協力し、ガンバ大阪のスポンサーや観光振興を目指す大阪府、府内の経済団体、他のホームタウン市等とも協力し進めていけば、大変夢のある構想ではないかと考えます。上手く協力が得られるかどうかは別として、吹田市も他市に劣らずガンバ大阪を支援するんだ、という市の姿勢のアピールになると思いますが、このような構想を市としてもつことに対してどのようにお考えか、市長のご意見をお聞かせください。

次に、2月に新学習指導要領案が発表されましたので、それに関連し学校行事についてお訊ねします。

今回の改正の特別活動の中の学校行事で、「自然の中での集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあつて、見聞を広め、自然や文化などに親しむ」といった内容が加わりました。このような指導要領改定にあたり今行われている集団宿泊活動である修学旅行の見直しを提言したいと思います。

平成19年度、本市では平和学習を目的とし、修学旅行で、小学校36校中33校が広島、中学校18校中11校が沖縄を訪れております。平和学習は、確かに大切なことだと思いますが、以前議会でも述べましたとおり「戦争は悲惨だ」ということを学ぶだけでは、十分な平和学習とは言えません。戦争が起こるのはなぜか、戦争の背景には人類が資源や食料を奪い合ってきた事実があることをしっかり教え、その上で、悲惨な戦争を未来永劫起こさないようにするために、現代に生きる我々がすべきことを考える。これが真の平和学習だと私は考えます。こうした考え方に立ち、自然体験活動を通し、環境・資源問題や食料問題を考えつつ、平和を維持することの大変さを学ぶ、そこまで踏み込んだ学習を修学旅行で行えないかと考えます。

こうした教育は、国家百年の計であります。現在、アメリカでは、小学校の段階で「海洋教育」なるものを始めています。アメリカも20年後には食料輸入国になると考えられていますので、海に目をつけ、資源確保のため、今のうちから海洋事業や水産業を担う人材を国家規模で育成していこうというのです。そこでわが国でも昨年4月には、「海洋基本法」が制定され、その中で「海洋に関する政策課題に的確に対応するために必要な知識及び能力を有する人材の育成」が必要と謳われておりますが、まだそのような指針が、国家戦略として教育の中に取り入れられるには少し時間がかかると考えます。これは農業にも同様に言えることだと思います。

近い将来わが国でも食糧難が予想されますから、私は、今すぐにでも農業や水産業を担う優秀な人材の育成に取り掛からねばならないと強く考えております。図体の大きい国の舵取りが始まる前に、先見の明を持って、他の自治体に先駆けてそうした活動を吹田で始めていくべきではないでしょうか。その一つの取組みとして、修学旅行を漁業体験や農業体験とし、事前に農業や水産業について調べ、それらが国民の食料を確保する重要な役割

を担っていること、それらの持続のためには自然環境の保全が必要であることなどを、子供らに学ばせるわけです。修学旅行で、体験学習があるということを目標にすれば、子供もモチベーションを上げて学べるのではないのでしょうか。

このような見直しは、教育基本法、学校教育法、新学習指導要領、全ての理念に合致するものであり、食育にも適うものであると考えますが、今後の修学旅行のあり方について教育委員会はどのような見解をお持ちかお聞かせください。

続いて、若者の政治参加についてお訊ねします。

1月17日に大阪府知事選がありました。知名度の高い候補が立ったこともあり、本市の当該選挙の投票率は53.79%と、前回の43.44%と大きく上回ったとの、報告を受けました。しかし、投票率が上がったといっても、まだ半数の方は選挙に行っていないわけです。このような投票率の低下は、民主主義を掲げるわが国にとって大きな危機だと私は感じております。中でも若者の政治離れが深刻で、20代では3人に1人しか投票に行かないという統計もあります。政治に無関心な若者がそのまま大人になると、家庭で政治の話などもしなくなりその子供も政治に無関心になってしまうという負の連鎖が続いてしまうのではないのでしょうか。それでは、市長が施政方針で述べられた地方分権のものと「市民政府、地域政府」など実現不可能となってしまいます。

今、私の下には、5人の大学生がインターンシップに来ております。以上のような問題意識を持って、彼らになぜ若者が選挙に行かないのか聞いてみると、「学校で習わないから政治家が何をしているか分からない」、「テレビを見てみると、政治家は悪いことばかりしているように思えて、政治に期待が持てない」といった意見が返ってきました。インターンに参加するような意識の高い大学生でもこのような認識なのです。また、中には「友達うちで政治の話なんてすると変わった奴だといわれる」といった声もありました。若者の間で政治の話をタブー視するような風潮すらあるということです。しかし、そんな彼らも、私と共に吹田の施設を回り、教育や介護、福祉の問題点を若干学んだだけでも「このままでは自分達の将来が不安です。絶対選挙に行かなければと思います」といつてくれるようになりました。こうした彼らの変化を見て、若者に政治を自分達の問題として捉えられるきっかけを与えさえすれば、多くの若者が政治に参加してくれるようになるのではないかと私は考えました。

そのようなきっかけ作りの取組みをしている例を挙げると、立命館大学では全国の知事が毎週交代で講義をする知事リレー講義が行われ、政治家の話を直接聴くことができるという物珍しさに学生の人気を集めています。また、三重県議会では「みえ県議会出前講座」と銘打って、学校からの申込を受け、学生らに対して、三重県議会の仕組みやなどについて議員が出前講座を開いています。

若者の政治参加や地方分権推進のために、本市でも出前講座で「市議会のはなし」といったテーマで講演をしているとお聞きしましたが、それは職員が行うものであり、市長や

我々議員が生（せい）の声を伝えるものではありません。本市には、多くの大学や小中高校がありますから、私は市長自ら出向（しゅくわう）いてお話をされてはどうかと考えますし、個人的には我々議員もそういった事業（じぎょう）に協力（きょうりょ）すべきだと思います。講義（こうぎ）するのは大変（たいへん）ですが、その反面（はんめん）、教育現場（きょういくけんば）の現状（げんじょう）や問題（もんだい）が分かり、よりの（よりの）射（や）た教育施策（きょういくしせつ）を考えることもできるようになると考えます。学生（がくせい）の側（がわ）、講演（こうえん）する側（がわ）双方（くわうほう）に学び（まな）びの多い活動（かっどう）になると考えるのですが、このような提案（ていせん）に対し（たいし）どのよう（よう）にお考え（おんが）ですか。地方分権（ちほうぶんけん）を進め（すす）めようとしておられる市長（しやうじやう）の見解（けんかい）をお聞（き）かせください。

次に、低学年（ていがくねん）教員補助者（きょういんほすけしや）についてお訊（き）ねいたします。

低学年教員補助者とは、小学校（しょうがっこう）の低学年（ていがくねん）で、一定（いじやう）の基準（きじゆん）を満た（み）た学級（がくけい）に配置（ちやうし）される、教員（きょういん）等の資格（しきかく）を持った補助者（ほすけしや）のこと（こと）です。これは吹田市（ふいたし）独自の事業（じぎょう）であり、私が（わが）学校（がっこう）訪問（びんぽん）をしているとどこの学校（がっこう）でも大変（たいへん）喜ば（よろこ）ばれている制度（せいど）です。他市（たし）にはない取組（とくぐみ）みであり補助者（ほすけしや）など要（い）らないではないか、という声（こゑ）もありますが、以前（いぜん）から議会（ぎぎ）でも申し上（ま）げているとお（お）り、今（いま）の子供（こども）は一昔（いっせき）前（まへ）より手（て）がかか（か）るので、今（いま）の大人（おとな）が自分（おのれ）の小学生（しょうがくせい）時代（じだい）と比（ひ）べてこのよう（よう）な批判（ひはん）をす（す）ることに、私は（わが）賛同（さんどう）でき（でき）ません。義務教育（こむぎきょういく）のスタート（すたーと）である大切（たいせつ）な時期（じき）に一人（ひとり）でも多（おほ）くの大人（おとな）を現場（げんば）に配置（ちやうし）し、子供（こども）達（たち）にしつけ（しつけ）や集団生活（しゅうたんせいふ）の規律（きりぎ）を身（み）につけ（つけ）させること（こと）は大変（たいへん）有意義（いぎぎ）であると考え（かんが）えます。このよう（よう）に、大変（たいへん）よい補助者（ほすけしや）の配置（ちやうし）ではある（あ）ると思う（おもう）のですが、現場（げんば）を回（まわ）ると一つ（ひとつ）の要望（びやうきやう）が聞（き）こえてき（き）ました。それは、配置（ちやうし）時間（じかん）を少（すく）し延（の）ばせな（な）いかということ（こと）です。今（いま）の制度（せいど）では、補助者（ほすけしや）の配置（ちやうし）時間（じかん）は朝（あ）の8時（じ）30分（ぶん）から12時（じ）30分（ぶん）まで（まで）、児童（じどう）が給食（じふじき）を食（た）べ終（お）わるまで（まで）、補助者（ほすけしや）の勤務（くむ）時間（じかん）は終（お）わってしま（しま）うわけ（わけ）です。低学年（ていがくねん）児童（じどう）に給食（じふじき）指導（しうど）するのは大変（たいへん）な仕事（しごと）だと私は（わが）考（かんが）えてお（お）り、せめて（せめて）1年生（いちねんせい）だけでもその配置（ちやうし）時間（じかん）を30分（ぶん）延（の）ばせ（せ）ないもの（もの）かと思（おも）います。給食（じふじき）の時間（じかん）をしっか（し）りカバ（カ）ーして（して）もら（もら）えれば、本市（ほんし）が推（お）し進（すす）しよう（しよう）とする食育（じふじき）の活動（かっどう）を補助者（ほすけしや）の方（かた）々にサポ（サ）ート（ト）してもら（もら）うこと（こと）もでき（でき）ると考（かんが）えます。

低学年教員補助者（ていがくねんきょういんほすけしや）の配置（ちやうし）についてど（ど）のよう（よう）にお考（かんが）えか、また、提案（ていせん）した時間（じかん）延（の）ばし（ばし）についてどう考（かんが）えられるか、関係部局（かんけいぶきう）の見解（けんかい）をお示（おし）し下（くだ）さい。

最後に、給食調理員（じふじきちりういん）の雇用形態（こむぎけいぎ）についてお訊（き）ねいたします。

私は、議員（ぎいん）になりました当初（だんしゅ）より、教育現場（きょういくけんば）に人（ひと）を増（ま）やすべき（べき）であると、一貫（いっくわん）して主張（しやうけん）してき（き）ました。しかし、財政（ざいせい）の健全化（けんぜんか）を目指（めざ）す本市（ほんし）にとつ（と）て、更（さら）なる人件費（じんぎんぎ）の増加（ぞうか）は厳（げん）しいこと（こと）もこの10ヶ月（じゅうごかげつ）でよく認（め）識（し）でき（でき）ました。そこで、予算（よさん）の増額（ぞうがく）が厳（げん）しいのであ（あ）れば、削（く）れるところ（ところ）を削（く）り、必要（ひつや）なところ（ところ）に回（まわ）すという発想（はつさう）に切り替（か）え、予算（よさん）の使（つか）い方（かた）に見直（みなお）す点（てん）がないか（か）を検（けん）討（たう）してまい（まい）りました。

そこで今回（こんかい）注目（ちゆぼ）したのが本市（ほんし）に約（やく）140名（な）ほどお（お）られる給食調理員（じふじきちりういん）の雇用形態（こむぎけいぎ）です。皆（みな）さんご存知（ぞんち）のとおり、本市（ほんし）の小学校（しょうがっこう）は36校（せう）全（ぜん）てで自校調理（じがっこうちりう）を行（い）っており、約（やく）140名（な）の職員（しやくいん）の方（かた）が給食調理（じふじきちりう）に従事（じゆんじ）してお（お）られます。そのうち（うち）市（し）が直接（じかぎ）雇用（こむぎ）している職員（しやくいん）数（かず）は現在（げんざい）

約120名いるとお聞きしました。彼らの法定勤務日数は、年間247日で、年次有給休暇と夏季休暇を抜くと実働日数は219日となります。これは、1年で計算すると週に4.2日の勤務ということになります。また、本市教育委員会のホームページで調べますと1年間で給食を作る日数は191回しかないとのこと。そこで、まず最初の質問ですが、給食を作らない期間、調理員の方々は何をされているのでしょうか。お答え下さい。

さらに、給食調理員の皆さんは、上記の年休や夏季休暇の他に1週間以内であれば、医者診断書などなくとも病休が何回でもとれると仄聞いたしております。28日の年休等を消化した上、さらに、そのような休暇をとっておられる方がいるのか、調理員の病休取得の実態について具体的な数字を挙げてお答えください。

そして、給食調理員の平均人件費を調べましたら、18年度で約743万という数字が出てきました。調理員の方の一日の勤務時間は7.5時間ですから、743万を先に挙げました219日で割り、さらに7.5時間で割って1時間あたりの人件費を計算しますと、約4500円という数字が出てきます。このような金額を知って、市民の方々がどのようにお感じになるとお考えでしょうか。見解をお聞かせ下さい。

以上で、1回目の質問を終わります。

#### [政策推進総括監答弁]

ガンバ大阪への支援につきまして、市長に、とのことですが、まず、政策推進部からご答弁を申し上げます。はじめに、現在、市が行っているガンバ大阪への支援内容でございますが、本市をホームタウンとするガンバ大阪を応援し、多くの市民に、ガンバ大阪をもっと知っていただきたいとの視点から、議員ご指摘の「子どもサッカーフェスタ in すいた」、「ふれあい活動」の他に、昨年秋の火災予防運動週間に「1日吹田市消防長」としての選手の派遣を依頼するなど、市の主催事業に協力していただくとともに、ガンバ大阪が「ホームタウン活動」として実施されている「吹田市民無料招待デー」等への協力をいたしております。また、ケーブルテレビの本市の広報番組「お元気ですか、市民のみなさん」の中で、平成17年（2005年）4月から毎月1回、「マイタウン、マイガンバ」と題しまして、これらのイベントの様子や選手紹介、試合結果などの放映もいたしております。

次に、市の観光推進を図るため、「ガンバのある町、吹田」としてアピールすることについて、でございますが、現在の本市の観光に関する取組みは、観光マップである「あろっく吹田」の活用や、まち歩きの案内のボランティアガイドである「吹田まち案内人」に支援しながら、「市民の、市民による、市民のための」観光を推進しているところでございます。

ガンバ大阪との連携につきましては、吹田まつりや商業祭などのイベントに参加していただくことが、市民へのPR活動にもなっているものと考えますが、まだまだ不十分であると認識いたしております。

ご提案いただいていることも踏まえまして、今後、関係部局と連携し、ガンバ大阪がわが町吹田のチームとして、より市民に愛されるよう、アピールする手段について検討してまいりたいと考えております。

次に、万博記念競技場を片山町2丁目JR職員宿舎跡地へ移転させる構想について、でございますが、たいへん夢のあるご提案をいただきました。

当該跡地を含む片山・岸部地域は、福祉、保健、医療の関係施設、図書館や体育館等が集積をいたしておりますことから、第3次総合計画の地域別計画におきまして、まちづくりの基本方向として、広く公共施設ゾーンと位置づけており、各機能の集積を生かし、拠点としての機能をさらに高め、市民の交流広場づくりや安心して暮らせるまちづくりを進めていこうとしているところでございます。

JR西日本によりますと、当該用地につきましては、当面、売却等の予定はないものの、本市とも十分連携し、検討を進めてまいりたいとのことでございますが、サッカー専用の競技場でJリーグの試合用に使用する競技場の建設となりますと、百億円単位の建設費がかかると聞いておりますので、実現化につきましては、かなり困難ではないかと考えております。

わが町吹田のガンバ大阪をアピールするためには、夢のある方策も必要であると考えておりますので、どのようなことができるか、今後、検討してまいりたいと考えております。

以上、よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。

#### [総括理事答弁]

学校教育部にいただきました数点のご質問にお答えいたします。

はじめに、今後の修学旅行のあり方ですが、最近の児童生徒につきましては、社会性や基本的な倫理観が身につけていないなどの問題が指摘される中、宿泊を伴う活動は、集団生活の在り方や公衆道徳を学ぶ上でも教育効果は大きいものと考えております。

また、各校でそれぞれ行事名を付して実施している修学旅行や林間学習・臨海学習については、これまでの学習のまとめや体験的活動等を通して視野を広げるといふねらいも持って行われております。たとえば、臨海学習におきましては、小学校6年間の水泳学習の総まとめと位置づけ、海という大自然の中で「命を守る」ための泳力を仲間と共に確かめ、高めあうなどの意義を有しております。修学旅行では、ヒロシマの地で「平和の大切さ」を学ぶと共に、宿泊地の特色に応じて、古代の製塩体験等の活動や歴史学習を行っております。中学校の沖縄修学旅行では、現地において「命の尊さ」を学ぶと共に自然体験、海洋体験等を実施しています。修学旅行の行先については、児童生徒の実態を踏まえ、総合的な学習や特別活動等の学習に位置づけ、各学校の教育課程の中で適切に決められているものと捉えております。今後も、修学旅行をはじめとする体験的学習については、食育等の観点も踏まえ、児童生徒の社会性や豊かな心を育む取組となるように研究して参ります。

次に、小学校低学年教員補助者配置事業につきましては、いわゆる小1プロブレムに対応し、小学校へのスムーズな移行を図るため、つまずきや戸惑いを見せることの多い低学年児童に対するきめ細かな指導を充実するなど、保護者からも高い評価を頂いているところでございますが、勤務時間につきましては、給食指導や下校時への対応等課題を残していると認識しております。

教育委員会といたしましては、今後とも、厳しい財政状況を勘案しながら、関係部局と協議を重ねてまいりたいと考えておりますので、よろしくご理解たまわりますようお願いいたします。

#### [学校教育部長答弁]

学校教育部にいただきました「給食調理員の雇用形態について」のご質問にお答え申し上げます。

平成16年(2004年)6月に「吹田市小・中学校給食検討会議」を設置し、同年12月に「吹田市の小・中学校給食の在り方について」提言をいただいたところでございます。

その中で、効率的な運営方策として、調理業務の民間委託又は正規職員退職者不補充の方向の両論併記となり、これを受けて検討いたしました結果、民間委託に対する保護者の不安が大きいこと、民間委託にするよりも給食調理員の配置基準を見直す方が、当面の経費削減が大きいことなどから、自校調理方式を堅持しながら給食調理員の配置基準を見直し効率的な運営に努めようと検討をいたしているところでございます。

給食調理員における3期休業中の勤務につきましては、給食調理員一人ひとりが、給食調理作業における衛生面で常に注意を払うといった自覚を持ち、食の安全確保に努めるための衛生研修や児童に美味しい給食を食べてもらうため、新しい給食メニューなどの試作を行う調理実習を行っております。

また、給食調理員の作業上での事故など労働災害防止のため、労働安全研修も実施しているほか、給食実施期間中にはできない、給食調理場・配膳室及び休憩室などの大がかりな環境整備、清掃、厨房機器類の点検、更には、新学期に向けて食器、食缶、機器の洗浄・点検・整備を行っております。

次に、給食調理員の病気休暇取得についてでございますが、平成18年度(2006年度)における取得状況といたしましては、地方公務員法に基づく休職処分に至らない病気休暇取得者数につきましては、15名でございます。そのうち、取得日数の最長の者は合計で88.5日、最短の者は1日の取得となっております。また、15名の病急取得の平均日数は26.9日となっております。

なお、本市の運用におきましては、病気休暇取得の際は病気休暇願に医師の診断書の添付を必要としておりますが、1週間未満の病気休暇につきましては、診察結果や病状を所属長に報告し、承認を得た場合は、診断書を添付せず取得できることとしております。

最後に、給食調理員の人件費につきましては、職員一人ひとりが、市民の皆様方から妥当と言っていただける安心安全な給食業務を遂行するのが責務だと考えておりますので、よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。

#### [市長答弁]

神谷議員からいただきましたご質問に、ご答弁申し上げます。

最初に、ガンバ大阪への支援についてでございますが、観光振興の観点から、大変夢のある構想をご提案いただきました。

本市をホームタウンとするガンバ大阪の活躍は、まさに吹田の「宝」であり、ガンバ大阪の活躍は、ホームタウンの市長として誇らしく、また、うれしく思うものでございます。

私は、これまでからガンバ大阪の活躍を一つの起爆剤として、まちの振興・活性化を図ってきたところでございます。

競技場の新築移転につきましては、難しい問題であろうかと存じますが、市民の皆さんと共に今後ともガンバ大阪を応援してまいります上でのご提案として受け止めさせていただきますとともに、今後、支援のあり方について、さらに検討してまいりたいと存じます。ガンバ大阪の活躍によって、吹田のまちがにぎわい、より活性化するものと期待し、わがまち吹田のガンバ大阪を精一杯支援してまいりたいと考えております。

次に、若者の政治参加についてでございますが、私も先日、市議会議員のもとで学ばれております、インターンシップの方々に、市長としての仕事がどのようなものであるかを知っていただく機会を持つことができました。

彼らは、短い時間ではありましたが、私と行動を共にして「大変勉強になった」、「まちづくりへの関心をもった」などの感想を寄せていただいております。私も役目を果たしたように思っております。

本市では、市内の大学との間で連携協力に関する包括的な基本協定を結んでおりまして、平成18年（2006年）度から、関西大学が主催する連続講座に職員を講師として派遣し、「吹田学」と題して本市の市政全般について講義を行っております。

私も、初回に学長との対談形式で、次代を担う学生に対し、市政に取り組む私の思いなどをお話しさせていただいたところでございます。また、来年度は、対象を全学生に広げ、副市長以下、様々な部署の職員による講座を予定しておりまして、行政全般に対する理解を深めていただきたいと思いますと思っております。

今後、こうした事業を他の大学に広げてまいります。

以上、よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。

#### [再質問]

時間もありませんので、給食調理員の雇用形態についてのみ再質問させていただきます。答弁をお聞きしますと、28日の休暇を使い果たすと、病休を取られる方が、約120名中15名もいらっしゃるとのこと。また、参考に頂いた資料をみると、その15名の平均欠勤日数は約27日で、何十日か休んでも給与の全額が支払われ、時間当たりにして4500円の人件費がかかっているんです。これらの数字を聞いて、市民の方々は今のままの勤務体制でよいとお考えになるでしょうか。

大阪の堺市では、平成11年から市内の9割の学校の給食調理を民間業者に委託しており、その委託料は平成19年度の場合11億4200万円ということです。委託で働く調理員の数は、常勤非常勤合わせて約360人ということです。委託業者がマージンを取っていないと想定し、大雑把に計算しても、一人あたま、年間約320万円の仕事を受けていらっしゃるということになります。正確な数字の比較ではありませんが、私は本市でも段階的に民間委託に切り替えれば、明らかに人件費の削減に繋がると考えます。直接雇用で、食の安全を守るという意見をお聞きしたこともあります。来年から始まる中学校給食は民間委託で食の安全を確保できるということですから、小学校の給食のみ、直接雇用でなくてはならない理由はないと考えます。

そこでお聞きしますが、民間委託すると、各学校では何人の調理員で、作業ができると計算されますか。それにより本市では全体でいくらのコスト削減になるか、だいたいの数字でよいのでお答え下さい。

#### [学校教育部長答弁]

学校教育部にいただきました給食調理業務の民間委託についてのご質問にお答え申し上げます。

学校給食につきましては、厳しい財政状況の中で、更なる効率的な運営が求められているとともに、安全でおいしく栄養バランスのとれた給食を維持し、より充実することも要請されているところです。これを受けまして、民間委託にするよりも自校調理方式を堅持し、給食調理員の配置基準を見直すことにより、効率的な運営に努めてまいりたいと考えております。

ご質問をいただきました、全小学校36校の給食調理業務を民間委託した場合の経費につきましては、現行人員配置を基準とした概算でございますが、委託料として積算いたしますと、7億5000万円の見込みとなるのに対しまして、平成18年度(2006年度)決算額では給食調理員及びアルバイト・パート職員の人件費10億2506万円でございます。差し引きいたしますと、約2億7000万円の削減になると推測されます。

以上、よろしくご理解賜りますようお願い申し上げます。

#### [再々質問]

試算していただいた金額みると、堺市は81校で11億4千万であるのに対し、吹田市

は36校で7億5千万とは、随分水増し試算のように感じます。しかし、2億7000万円だけでも非常に大きな金額です。是非、調理員の民間委託を段階的に進めていただき、そこで浮いた予算は財政再建に当てるのではなく、低学年補助者や読書活動の支援者、または、小学校の英語専任教員を雇用したり、休みなく部活指導しておられる先生方の部活指導奨励金を創設していただいたり、校舎を改築するなど、より市民に喜ばれる教育行政施策に当てていただくことを要望しまして、私の質問を終わります。